

群 教 セ	E03 - 03
	平25.249集
	小・学級経営

互いに認め合い、協力し合って よりよい生活を目指す学級づくり

— 集団活動を支援する小学校「学級活動サポートファイル」の
作成と活用を通して —

長期研修員 山村 英二

キーワード 【学年・学級経営 学級活動 集団活動 話し合い活動 振り返り活動】

I 主題設定の理由

「はばたく群馬の指導プラン」では、群馬の子どもたちの「生きる力」を一層高めるために、伸ばしたい資質・能力の一つである豊かな心として、「向上する心」「やりぬく心」「大切にできる心」の三つが示された。そして、小学校3・4年生では、「大切にできる心」の「目指す子どもの姿」として「学級の生活をよりよくするために、友達と協力し合うことができる」ことが求められている。学習指導要領において、学級活動の中学年の内容では「協力し合って楽しい学級生活をつくる」ことに重点が置かれている。上記の「目指す子どもの姿」は、学級活動で育てたい態度や能力と重なる考える。

現在、学級には基本的な生活習慣が確立していなかったり、自己中心的な言動をしたりする児童など特別な配慮や支援を必要とする児童が見られる。教師には学級全体の対応をしながら、これらの児童に対する個別対応が求められている。様々な要因から学級経営が困難な状態も生じている。また、現在の児童は生活や遊びで集団活動の経験が少なく、人間関係づくりが苦手である。協力校でも気の合う友達としか活動ができなかったり、自分から友達や集団にかかわろうとしなかったりする姿が見られる。その原因として、多様な友達の考えをよく聞き、その立場を理解し認めたり、一つのことを集団で協力して成し遂げたりする経験が少ないことが考えられる。

そこで、共通の目標に向かって全員で考え、話し合い、実践する集団活動を意図的に設定する。その中に話し合い活動や振り返り活動を計画的に取り入れることで、互いに認め合い、協力し合う自主的、実践的な態度を育てることができると考える。児童は話し合い活動で決まったことを実行する中で自分の役割や責任を果たすことで、自分の居場所ができ、所属感や活動への意欲が高まる。また、話し合い活動や振り返り活動で自分の考えやよさが認められることで、自己有用感や自分への自信が高まる。

児童は学級で複数の集団に所属する。係活動や清掃活動は多様な集団の一つであり、児童は日常的に継続的に取り組んでいる。それらの集団活動に応じて段階的に活動づくりを支援するための「学級活動サポートファイル」を作成する。「計画」「実践」「評価」の活動過程で、「学級活動サポートファイル」を活用して話し合い活動や振り返り活動の場を設けて、意見交換をして協力し合えるようにする。この一連の活動を繰り返すことで、よりよい学級生活を築くために互いに認め合い、協力し合う態度を育てることができると考える。

以上のことから、本研究では、学級活動において、集団活動を支援するための「学級活動サポートファイル」を活用して話し合い活動や振り返り活動を取り入れることは、互いに認め合い、協力し合ってよりよい生活を築こうとする学級づくりにつながると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

学級活動などにおいて、集団への所属感や活動への意欲、自己有用感、自分への自信を高めるために、「学級活動サポートファイル」を活用した話し合い活動や振り返り活動を取り入れることが、互いに認め合い、協力し合ってよりよい生活を目指す学級づくりに有効であるかを明らかにする。

Ⅲ 研究の見通し

1 集団への所属感の高まり

学級活動や朝の会などにおいて、「学級活動サポートファイル」を活用した話し合い活動を取り入れることで、一人一人が意見をもち、友達の意見をよく聞きながら折り合いを付けて集団決定をし、集団への所属感が高まるだろう。

2 個人の役割や責任を果たす意欲の高まり

朝の会や帰りの会などにおいて、「学級活動サポートファイル」を活用し、活動目標に沿った具体的な価値ある言動を認め、紹介することで、集団活動で個人の役割や責任を果たそうとする意欲が高まるだろう。

3 自己有用感や自分への自信の高まり

学級活動や朝の会などにおいて、「学級活動サポートファイル」を活用した振り返り活動を取り入れることで、自他のよさに気づき、互いに認め合い、自己有用感や自分への自信を高め、協力し合ってよりよい生活を築こうとする学級づくりにつながるだろう。

Ⅳ 研究内容の概要

本研究で目指す児童の姿は、自主的、実践的に楽しい学級生活をつくろうとする児童である。その具体的な姿は、学級生活の向上のために活動目標やその取組について全員で考え、話し合い、役割を分担し、協力して実践することである。互いに認め合い、協力し合ってよりよい生活を目指すために、集団活動を支援する「学級活動サポートファイル」を作成する。これは、「仲間づくりカード」「学級活動ノート」「活動ヒントカード」「話し合いシート」「振り返りシート」の五つの教材でできている。それぞれの教材は、自分の考えや話し合いの決定事項などを記述できるようになっている。この記述を基に活動を振り返り、活動の価値や自分の身に付けた力について評価し、次の活動の意欲につなげる。

事前に係活動や清掃活動など集団活動について、その意義や役割を伝えることで、目的意識をもって活動に取り組ませるようにする。児童の活動過程「計画1」「計画2」「実践」「評価」で、「学級活動サポートファイル」を活用していく。活動目標に向けて一人一人の思いを交流でき、集団で活動する楽しさを味わい、互いによさを認め合いながら交流できるようにする。活動過程で「学級活動サポートファイル」を活用することで、集団活動の進め方を知らせたり、充実した実践活動がよりよい生活づくりに結び付くことを経験させたりして、一人一人が意見をもち、折り合いを付けて、集団決定をしたり、集団決定したことを協力して実現したりする力を育てていく。

Ⅴ 研究のまとめ

1 成果

- 「計画」「実践」「評価」の活動過程で、「学級活動サポートファイル」を活用した話し合い活動や振り返り活動を取り入れたことで、児童自らが学級を楽しくしようと友達と活動できるようになり、互いに認め合い、協力し合ってよりよい生活を築こうとする学級づくりにつながった。
- 学級活動の実態や係活動、清掃活動に関するアンケート調査をし、その結果をグラフで表し提示したことで、児童に学級活動の状況を知らせ、学級生活の問題に気付かせることができた。

2 課題

- 活動過程ごとに、児童は「仲間づくりカード」を使って集団で「活動の評価」を行い、活動づくりの状況を知った。また、集団づくりの状況を見取るための視点を設け、教師が「集団の評価」を行った。今後は、低学年・中学年・高学年ごとに学級集団の発達を段階別に表し、各段階ごとに、学級活動としてどのような活動を行えば次の段階に進めるかを実践を通して検討する必要がある。

VI 研究の内容

1 「互いに認め合い、協力し合ってよりよい生活を目指す」について

小学校学習指導要領特別活動では、発達段階に即した人間関係を形成する力については、学級活動で取り上げる指導内容の重点化が図られている。第1学年及び第2学年では「仲良く助け合い」や第3学年及び第4学年では「協力し合って」、第5学年及び第6学年では「信頼し支え合って」を目指して指導することが求められている。

中学年において、本研究で目指す児童の姿は、学級生活の向上のために活動目標やその取組について全員で考え、話し合い、役割を分担し、協力して実践するなど自主的、実践的に楽しい学級生活をつくらうとする児童である。この時期には、気の合う友達同士が仲間をつくって自分たちの世界を守り、楽しもうとする傾向があり、集団での活動が盛んになる。しかし、仲間集団としての小集団に分かれ、集団同士の対立や、集団の考えにすぐに同調する行動も見られる。

このような発達的な特質から、中学年においては、健康的な仲間集団を積極的に育成していくことが大切であり、友達のことを互いによく理解し、信頼し、助け合うことを中心として指導する必要がある。そのために、集団活動への意識の高まりを生かして、自分の行動や集団としての活動の成果や課題を踏まえて、楽しい学級生活を目指しての係活動などの協同の活動を充実させる必要がある。

2 教材の概要

互いに認め合い、協力し合ってよりよい生活づくりを目指す児童の育成を目指して、「学級活動サポートファイル」を作成し活用する。「学級活動サポートファイル」は、学級活動における集団活動の記録を残すものである。また、活動内容を盛り込んだ「学級活動サポートファイル」を配布することにより、今後の学習が見通せるようにする。

児童一人一人は自分の考えや思いを「学級活動サポートファイル」に記述する。それを基に活動を振り返り、活動の価値や自分の身に付けた力について自己評価し、活動の達成感や次の活動への意欲につなげる。

「学級活動サポートファイル」は、低・中・高学年ごとに作成し学級の集団活動の基盤となる係活動と清掃活動で構成されている。係活動などの小集団は、よりよい生活づくりを目指して比較的少人数で組織されているものである。

「学級活動サポートファイル」は、「仲間づくりカード」「学級活動ノート」「活動ヒントカード」「話し合いシート」「振り返りシート」の五つの教材で構成されている(図1)。また、教師用として「教師用指導書」を作成する。教材の詳細は次のとおりである。

<p>仲間づくりカード 計画1 レベル1</p> <p>係活動をパワーアップしよう!</p>  <p>目標に向けての活動計画をみんな話し合うことができる。</p> <p>ポイント ○○</p>	<p>仲間づくりカード 計画2 レベル2</p> <p>活動をパワーアップしよう!</p>  <p>自分で自由な活動を主体的に話し合うことができる。</p> <p>ポイント ○○○</p>	<p>仲間づくりカード 実行 レベル3</p> <p>活動をパワーアップしよう!</p>  <p>自分がたまたで決めた活動計画が、続けて仕事をすることができる。</p> <p>ポイント ○○○○</p>	<p>仲間づくりカード 振り返り レベル4</p> <p>活動をパワーアップしよう!</p>  <p>目標に向けてのよりよい方法を話し合うことができる。</p> <p>ポイント ○○○○○</p>
仲間づくりカード			
<p>学級活動ノート No.1 係活動 計画1</p> <p>係活動「○○」の活動計画をみんな話し合うことができる。</p> <p>活動計画 (係活動) (活動計画) (話し合い) (振り返り) (振り返り)</p> <p>話し合い (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い)</p> <p>振り返り (振り返り) (振り返り) (振り返り) (振り返り) (振り返り)</p>	<p>学級活動ノート No.2 係活動 計画2</p> <p>係活動「○○」の活動計画をみんな話し合うことができる。</p> <p>活動計画 (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い)</p> <p>話し合い (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い)</p> <p>振り返り (振り返り) (振り返り) (振り返り) (振り返り) (振り返り)</p>	<p>学級活動ノート No.3 係活動 実行</p> <p>係活動「○○」の活動計画をみんな話し合うことができる。</p> <p>活動計画 (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い)</p> <p>話し合い (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い)</p> <p>振り返り (振り返り) (振り返り) (振り返り) (振り返り) (振り返り)</p>	<p>学級活動ノート No.4 係活動 振り返り</p> <p>係活動「○○」の活動計画をみんな話し合うことができる。</p> <p>活動計画 (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い)</p> <p>話し合い (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い)</p> <p>振り返り (振り返り) (振り返り) (振り返り) (振り返り) (振り返り)</p>
学級活動ノート			
<p>活動「○○」の活動計画をみんな話し合うことができる。</p> <p>活動計画 (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い)</p> <p>話し合い (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い)</p> <p>振り返り (振り返り) (振り返り) (振り返り) (振り返り) (振り返り)</p>	<p>活動「○○」の活動計画をみんな話し合うことができる。</p> <p>活動計画 (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い)</p> <p>話し合い (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い)</p> <p>振り返り (振り返り) (振り返り) (振り返り) (振り返り) (振り返り)</p>	<p>活動「○○」の活動計画をみんな話し合うことができる。</p> <p>活動計画 (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い)</p> <p>話し合い (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い)</p> <p>振り返り (振り返り) (振り返り) (振り返り) (振り返り) (振り返り)</p>	<p>活動「○○」の活動計画をみんな話し合うことができる。</p> <p>活動計画 (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い)</p> <p>話し合い (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い)</p> <p>振り返り (振り返り) (振り返り) (振り返り) (振り返り) (振り返り)</p>
活動ヒントカード			
<p>話し合いシート</p> <p>話し合うこと () 話し合い ()</p> <p>話し合い (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い)</p> <p>話し合い (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い)</p> <p>話し合い (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い) (話し合い)</p>	<p>振り返りシート</p> <p>よかったこと () ほんの名前 ()</p> <p>個人 () 直したいこと () 集団 ()</p> <p>振り返り (振り返り) (振り返り) (振り返り) (振り返り) (振り返り)</p> <p>振り返り (振り返り) (振り返り) (振り返り) (振り返り) (振り返り)</p>		
話し合いシート		振り返りシート	

図1 学級活動サポートファイル

(1) 仲間づくりカード

「仲間づくりカード」は、児童が共通の目標に向けて同じ班内あるいはほかの班と高め合いながら、楽しく活動に取り組めるようになっている。児童の活動を「計画1」「計画2」「実践」「評価」の四つの活動過程と考え、四枚のカードに活動のめあてを段階的に示す（表1）。

カードには集団で目指す活動のねらいを示すことで、班ごとに自分たちで集団決定をし評価ができる。活動に対する評価として「ポイント」を色で塗ることで集団の活動づくりの状況が分かる。

「仲間づくりカード」を使用する際に、初めに教師が学級全体の学級活動の状況について話す。それを基にして係活動などの各班ごとに自身の班の状況を分析し、目標を設定する。その後、「仲間づくりカード」を手掛かりにして、計画、実践、評価の活動を行う。児童は活動ごとに小さな成功体験を重ね、最後には大きな成功体験をして自信を深めるようになる。

(2) 学級活動ノート

「学級活動ノート」は、活動過程に合わせて作成されており活動に見通しをもてるようになっている。よりよい話し合いをするために、自分の考えや思いをまとめたり、話し合いでの決定事項などを記録しておく実践活動時に自分の役割を確かめたりできる。

「学級活動ノート」は、活動過程に合わせて、児童が必要な事柄を簡単に書けるようになっている。また、話し合いがスムーズに進められるように「話し合い活動の進め方」などを示す。

小集団での話し合い活動や振り返り活動の際に、自分の考えをもって臨めるように事前に個人の考えや思いを学級活動ノートに書き込んでおく。また、話し合いで決まった活動の目標を始め、活動内容や役割分担などを自分で書き込み、活動の記録を残す。さらに、話し合いや事後の実践などの様子を自己評価するために活用できる。

(3) 活動ヒントカード

「活動ヒントカード」は、話し合いや振り返りをする際に活動の手掛かりになるように、活動の流れが分かるようになっている。「学級活動ノート」に対応しており、活動の流れが端的に示されている。活動中に困ったときに、これを見ながら活動を進めることになる。

(4) 話し合いシート

「話し合いシート」は、話し合い活動で一人一人の意見が分かるように、自分の考えを付箋紙に記入して、これに貼り出し、意見を整理できるようになっている。

話し合い活動は、学級や学校の生活づくりに関することで、児童が共通の問題について班に所属するそれぞれのメンバーの意見を尊重し、集団決定をするために行う。そのために小集団で一人一人の意見が分かるように付箋紙に記入し、「話し合いシート」に貼り出し、話し合いを進める。

(5) 振り返りシート

振り返りシートは、縦横2軸によって4象限に仕切られ、気づきや考えを引き出し、整理できるようになっている。

振り返り活動は、体験活動を振り返り、そこから学んだことを記述し、発表し合う活動である。自分の活動を振り返り、言語化することで自分の考えが整理できる。また、気づきや考えを発表し合うことで、ほかの児童との考えの違いが分かり、他者理解につながる。そのために自己評価を基に成果や課題を付箋紙に書き、小集団で「振り返りシート」を使って整理する。整理することで、成果や課題がとらえやすく、課題解決のための方向性が共有できる。

表1 活動過程と活動のめあて

活動過程	活動のめあて	評価
計画1	目標に向けての活動計画をみんなで話し合うことができる。	2段階
計画2	係（清掃）活動で目指す姿を具体的にみんなで話し合うことができる。	3段階
実践	全員が自分たちで決めた活動計画が分かり、続けて仕事することができる。	4段階
評価	目標に向けてのよりよい方法をみんなで話し合うことができる。	5段階

注：活動過程を追うごとに評価の段階を増やす

(6) 教師用指導書

「教師用指導書」(図2)は、児童用「仲間づくりカード」「学級活動ノート」などを活用するための例を示したものである。集団活動ごとに指導のねらいや該当する学年の学級活動の評価規準、育てたい子どもや集団の姿を見取る視点、話し合い活動や振り返り活動に対する指導のポイントなどを記す。

指導のポイントには、「自己決定の場を与えること」「共感的な人間関係を育成すること」「自己存在感を与えること」の三つの生徒指導の機能を生かした学級活動における指導を行えるように内容を記す。

また、集団活動において配慮の必要な児童に応じた支援のポイントも記す。集団活動においてリーダー性を発揮する児童、友達とのかわりが少なく活動に対して消極的な児童、自己中心的で自分の考えに固執するなどして活動に集中できない児童に対して、それぞれ支援のポイントを示し、活動を促す。

係活動「学級活動ノート」教師用指導書 №1

1 児童の活動の過程「計画1」の段階 (①計画1→②計画2→③実践→④評価)

2 指導のねらい
楽しい学級生活をつくるために、創意工夫して計画的に係活動を進め、協力し合って活動することができるようにする。

3 第3学年及び第4学年の学級活動(1)の評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・表現	集団活動や生活についての知識・理解
自分たちが学級のためにできる活動の役割や活動の仕方について考えている。	学級生活の向上に役立つ活動を考え、協力し合って実践している。	集団活動の役割や活動の仕方について理解している。

4 育てたい子どもの姿(全活動を通して) **育てたい子どもの姿を見取る視点**
楽しい学級生活をつくるために係活動の活動内容や役割、活動の仕方などについて考え、進んで参加している。係活動の自分の役割を責任をもって行っている。目標に向けた活動に、同じ係の児童と協力し合って取り組んでいる。活動後に目標にかかわる自分の気持ちや、友達のがんばっていたことについて発表したり、振り返りカードに書いていたりしている。

5 育てたい集団の姿(計画1の過程において) **育てたい集団の姿を見取る視点**
(1) 活動の評価
目標に向けての活動内容や方法など計画をみんなで話し合うことができている。
(2) 集団の評価
一人一人の思いや願いを交流できる集団になっている。

6 活動の流れと評価

児童の活動	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童への支援 ○評価)
事前 ○席ごとに目標を決める。	・学級目標につながることを考え、目標を立てさせる。
計 ○活動のねらいを確かめる。	・各班ごとに仲間づくりカードで活動のねらいを確かめさせる。
○係の目標を確かめる。	・係ごとに全員で係の目標を言わせて確かめさせる。
○話し合う。	・「いつ」、「それが」、「どこで」、「何を」するかを活動開始前段階で話し合わせる。
画 ○決まったことを学習シートに書く。	・活動に消極的な児童に対しては、自信をもって活動できるように近くで見守ったり、「活動ヒントカード」を見せながら活動の流れを確かめ、活動を促すよう声を掛ける。
1 配慮の必要な児童に応じた支援	・活動計画をじっくり考えられるように、自分で考えたり、話を活動したりする時間を保障する。(自己決定) ・全員の考えが発表できるように、指名して発表を順番に行うようにする。(自己存在感) ・リーダー的な児童に対しては、活動に対して困ったり迷ったりしている場合は、話を聞き活動が進むよう誘導する。
三つの生徒指導の機能を生かした指導	・児童同士の考えが認め合えるように、よく聞くよう声を掛ける。(共感的人間関係) ・活動中に考えが違ったり、納得できない場合は、話をよく聞き、自身の考えのよさを認める。

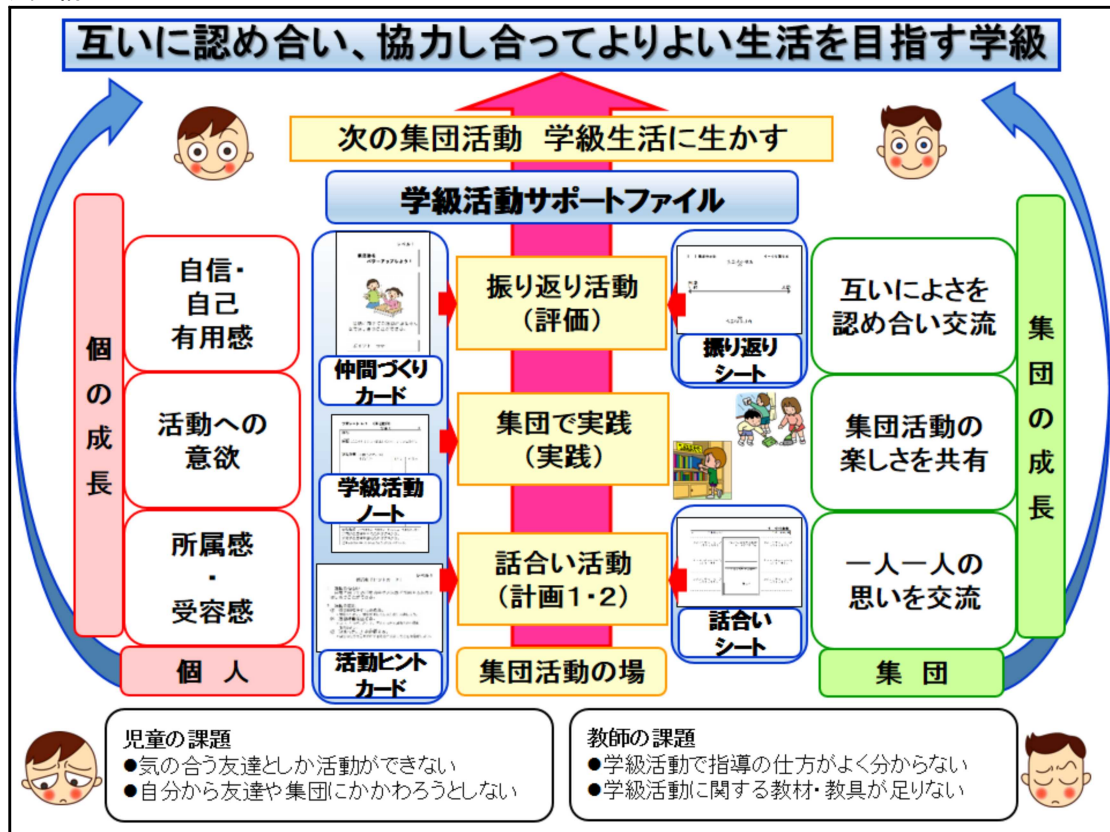
図2 教師用指導書の一部

3 先行研究の分析結果と研究とのつながり

群馬県総合教育センターの長期研修員研究報告書第243集に収録される「互いに認め合うことができる学級づくりの工夫」では、生徒指導の三つの視点を踏まえ、中学校学級活動において、自作「学校行事ノート」を活用した授業実践を行っている。そこで、「KJ法」と「概念化シート」による話し合い活動や相互評価による自他のよさの発見を通して、生徒の自己存在感を高めるとともに、互いに認め合うことができる学級づくりにつながったとしている。また、同第246集に収録される「集団への所属感や連帯感を深める学級活動の指導の工夫」では、小学校学級活動において、学校行事に向けての話し合いから活動後までの児童の思いや考えを表す「学校行事コミュニケーションファイル」を活用し、話し合い活動の活性化を図っている。学年で共通の目標を設定し、学年行事に向けて一丸となって取り組むことで、所属感や連帯感が高まったとしている。二つの実践的研究は、学級活動で学校行事に向けての話し合い活動に重点を置いている。本研究では、上記の教材の内容や話し合い活動の進め方を参考にし、小学校学級活動において、自作教材を活用した話し合い活動を効果的に行うことで、目指す児童を育成したいと考える。

札幌市立和光小学校の平成22年度研究成果報告書では、研究主題「『開かれた個』の育成」副主題「仲間と学び合い 仲間と語り合い 仲間を広げる—学級活動の授業づくりを通して—」としている。特別活動を教育課程編成の中核に据えて、3年間研究に取り組み、その成果を挙げている。望ましい集団の発達の段階を明らかにすることで、1年間で学級集団をどこまで育てるのかを全校で共通理解しながら、実践を行った。また、評価の観点及び評価規準を設定したことに伴い、具体的な評価方法や指導計画及び評価計画を作成している。全校の取組として、児童は各自「特別活動ノート」を持っており、自分の考えをもてるようにしている。「特別活動ノート」の用途は多様で、計画委員会の記録や各行事の頑張りを記録するなど、児童各自の1年間の取組が記録されている。この記録は、次の活動の貴重な参考資料となると報告している。同校が作成した「学校生活における集団活動の発達の特質」の学年別や段階別の表は、学級集団に段階的な指導を行う際に目安となり、本研究で、さらに改善して活用できるようにしたいと考える。

4 研究構想図



VII 実践の計画と方法

1 授業実践の概要

対象	研究協力校 小学校第4学年 56名	
実践期間	平成25年10月1日～11月5日 8時間	
単元名	「係活動をパワーアップしよう」 学級活動(1)	「清掃活動を見直そう」 学級活動(2)
単元の目標	前期の係活動を見直ししながら、係の計画づくりと実践を通して、係活動をパワーアップしていくために必要な活動内容を決め、もっと学級生活を楽しく、充実させるような活動にすることができる。	今までの清掃活動を振り返り、具体的な自己の課題や解決方法を考えたり、課題に応じて行動目標を自己決定したりすることで、当番活動の役割や働くことの意義を理解し、自分の役割を果たすことができる。

2 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	「学級活動サポートファイル」を活用した話し合い活動を取り入れることで、一人一人が意見をもち、友達の見解をよく聞きながら折り合いを付けて集団決定をし、集団への所属感が高まるだろう。	・活動前後の学級活動アンケートの比較 ・「学級の雰囲気と自己肯定感を把握する質問紙(C&S)」の分析 ・活動前後の行動観察、行動比較
見通し2	「学級活動サポートファイル」を活用し、活動目標に沿った具体的な価値ある言動を認め、紹介することで、集団活動で個人の役割や責任を果たそうとする意欲が高まるだろう。	・「学級活動ノート」の記述内容の分析 ・「話し合いシート」の記述内容の分析 ・「振り返りシート」の記述内容の分析 ・チェックシート(チェック項目による教師の見取り)
見通し3	「学級活動サポートファイル」を活用した振り返り活動を取り入れることで、自他のよさに気付き、互いに認め合い、自己有用感や自分への自信を高め、協力し合ってよりよい生活を築こうとする学級づくりにつながるだろう。	

3 評価規準

(1) 第3学年及び第4学年の学級活動(1)の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	学級の生活上の問題に関心をもち、ほかの児童と協力して意欲的に集団活動に取り組もうとしている。
-----------------------	--

集団の一員としての 思考・判断・実践	楽しい学級生活をつくるために話し合い、自己の役割や集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、協力し合って実践している。
集団活動や生活についての 知識・理解	みんなで楽しい学級生活をつくることの大切さや、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の計画的な進め方などについて理解している。

(2) 第3学年及び第4学年の学級活動(2)の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	自己の生活上の問題に関心をもち、意欲的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。
集団の一員としての 思考・判断・実践	楽しい学級生活をつくるために、日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。
集団活動や生活についての 知識・理解	楽しい学級生活をつくることの大切さ、そのためのよりよい生活や学習の仕方などについて理解している。

4 指導計画

活動	過程	時間	活動内容	指導上の留意点	使用教材				
					①	②	③	④	⑤
係活動	事前	朝や帰りの会	○学級活動の実態を把握するためのアンケート調査を行う。	・正確な調査ができるよう、必要に応じて補足説明を行う。					
		朝の会	○前期の係活動についてアンケート調査を行う。	・係ごとに成果や課題を提示できるように、前期の係活動を振り返り、よかった点とうまくなかった点を考えさせる。					
		朝の会 休み時間	○計画委員会を開く。	・提案された議題について話し合えるように、アンケート結果をまとめたり、話し合いの活動計画を作成させたりする。					
	計画	学級活動	○学級活動①「係活動をパワーアップしよう」	・話し合い活動を通して、意見を出し合い、友達の意見のよさを認めながら、「自分もよくてみんなもよい」集団決定ができるようにする。					
		朝や帰りの会	○係活動ごとに活動計画を立てる。【計画1】	・係活動のねらいを確認し、活動の工夫や充実について係ごとに活動計画を作成させる。	○	○	○	○	
		朝や帰りの会	○係活動ごとに目指す姿について話し合う。【計画2】	・係活動において目指す姿(行動目標)を話し合い、共通の目標に向かって活動に取り組めるようにする。	○	○	○	○	
	実践	休み時間等	○活動計画を基に日常の係活動を行う。【実践】	・活動が進まない係については、活動内容や役割分担を確かめるよう助言する。	○	○	○		
		朝の会	○係活動を振り返る。	・活動の目標に向けての取組になっているか確かめるために、一定期間の係活動を振り返らせる。	○	○			
評価	学級活動	○学級活動②「係活動を振り返ろう」【評価】	・自分や友達のよさや努力に気付くように、集団の実践を評価するとともに、互いによさについて意見を交流させる。	○	○	○		○	
清掃活動	事前	朝の会	○前期の清掃活動についてアンケート調査を行う。	・前期の清掃活動を振り返り、自分のよい点や直したい点を考えさせる。					
		朝や帰りの会	○清掃当番班ごとに活動計画を立てる。【計画1】	・当番活動の役割等を確認し、与えられた役割を果たし協力し合えるように活動計画を作成させる。	○	○	○	○	
	学級活動	学級活動	○学級活動③「清掃活動を見直そう」【計画2】	・問題解決のための方法や、実践に向けての目指す姿(行動目標)を話し合わせ、自己決定することができるようにする。	○	○	○	○	
		清掃時間	○目指す姿に向かって日常の清掃活動を行う。【実践】	・目指す姿に向かって努力する姿を認め、賞賛したり、帰りの会等で紹介したりする。	○	○	○		
	実践	朝の会	○清掃活動を振り返る。	・活動の目標に向けての取組になっているか確かめるために、一定期間の清掃活動を振り返らせる。	○	○			
		学級活動	○学級活動④「清掃活動を振り返ろう」【評価】	・自分や友達のよさや努力に気付くように、集団の実践を評価するとともに、互いによさについて意見を交流させる。	○	○	○		○
	事後	朝や帰りの会	○事後アンケート調査を行う。	・今までの活動を振り返らせるために、必要があれば学級活動ノートを見ながら今の気持ちを素直に表現するよう指導する。					

注：使用教材の丸数字は、学級活動サポートファイルを構成する個々の教材を表す。

①仲間づくりカード ②学級活動ノート ③活動ヒントカード ④話し合いシート ⑤振り返りシート

5 研究実践

本研究では、以下のとおり「学級活動サポートファイル」を活用した授業実践を行った。授業実践は学級活動の時間に行い、「係活動をパワーアップしよう」と「清掃活動を見直そう」の二つの議題、題材を扱った。

(1) 仲間づくりカードの活用の方法

授業実践では、活動過程に合わせて「仲間づくりカード」を児童に提示した。話し合い活動や振り返り活動等の前後に「仲間づくりカード」を活用した。話し合いや振り返りの前に、「仲間づくりカード」を使って、学級全体または小集団で活動のめあてを読み上げて確かめた。活動後に、小集団で活動を振り返り、話し合って集団としての活動の評価を行った。学級全体または小集団で活動のめあてを「仲間づくりカード」で確かめることで、活動を通してどんな力を付けるかについて全員が共通の理解をもてたようであった。また、活動過程を重ねるごとに活動後の振り返りでは、小集団で互いに感想を出し合いながら、評価する姿が見られるようになった。

なお、係活動についての授業実践では、仲間づくりカードによる小集団の活動評価は、右の図3のとおりである。係の構成員の人数にかかわらず、係ごとに活動内容に合わせて適正に評価する様子が見られた。四つの活動過程を通して、係の活動評価の達成率は平均で約90%になった。

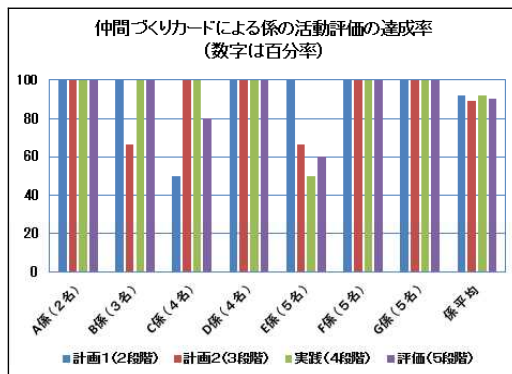


図3 仲間づくりカードによる係の活動評価の達成率

(2) 学級活動ノート活用の方法

授業実践では、「学級活動ノート」を以下のような手順で活用した。

- 手順1 話し合い活動の前に、議題に対する自分の意見や考えをノートに書く。
- 手順2 話し合い活動でノートに書いたメモを見ながら、自分の考えを発表する。自分の役割や大切な事柄、決定事項などを書く。
- 手順3 実践活動時にノートを見て、自分の役割を確かめる。話し合いや実践の活動後、参加意欲や態度などを自己評価し、次の活動に役立てられるようにする。

上記の各過程で、児童のよさや意欲を引き出すために、児童がノートに書いた考えや意見に対して、教師がコメントを書くようにした。活動に沿って児童を励ましたり、具体的に助言したりすることで、児童の意欲が高まるようにした。また、機会があれば、児童のよさを本人に直接伝えたり、朝の会等で話題にしたりした。

「学級活動ノート」(図4)を活用することで、児童は小集団での話し合いを前にして自分で考える場が設けられ、「学級活動ノート」に自分の考えを書いているため、安心して話し合いに参加し、発表することができた。

学級活動ノート No.1	係活動 計画1	
名前()		
係名 第1係		
目標 (〇〇をしてクラスを楽しくする、クラスの役に立つ)		
・明るい学室にする。		
活動計画 (活動内容と役割分担)		
すること	いつ	する人
かごりを作る。	月曜の 20分休み	係の全員
かごりを作る。	水曜の 20分休み	係の全員
かごりを作る。	金曜の 20分休み	係の全員
かごりをかごる。	月曜の 20分休み	係の全員
一か月ごとにかごりをかごる。	月の おわり	係の全員

図4 学級活動ノートの一部

学級活動「係活動をパワーアップしよう」では、計画1、計画2の過程での話し合い活動に対して、「自分の意見を言うことができたか」という自己評価の項目で、4段階で平均で3.1と評価し、自分の意見を持ち、話し合いに参加していた。また、「友達の意見を聞くことができたか」と「自分もよく、みんなもよいことを決める話し合いができたか」の項目では、4段階で平均でそれぞれ3.1、2.8であり、友達の意見を聞いて、折り合いを付けて話し合いがおおむねできたようである。

評価の過程で係ごとに振り返り活動を行った。その際に「学級活動ノート」を使って互いに活動のよさや努力の様子を伝え合うようにした(図5・6)。実践の振り返りや相互評価による伝え合いを基に、振り返り活動のまとめをしていた。書く活動や伝え合う活動に時間がかかった。

「自分たちで係の仕事をちゃんとできるように、学級ノートを作り、すごく分かりやすかった」「学級活動ノートで、どうこれから進めていいのかがよく分かった」という児童の感想の記述から、学級活動ノートが児童の活動に役立ったことが分かる。

(3) 活動ヒントカードの活用の方法

各活動過程で活動の手掛かりになるように、「活動ヒントカード」を教室の所定の場所に置いておき、児童が必要ならば持って行くようにした。係活動と清掃活動で毎回の活動で用意した。

係活動の計画1の過程では、ほとんどの児童が「活動ヒントカード」を見て、活動の参考にしていた。計画2、実践、評価と活動過程を経るごとに、児童の使用頻度が低くなった。児童が学級活動ノートの構成から活動内容を判断するなど自分で考えて活動するようになったことで、使用頻度が低くなったと思われる。

(4) 「話し合いシート」による話し合い活動

学級活動や業前の時間に2回、「話し合いシート」を用いた話し合い活動を行った。1回目は「係活動をパワーアップしよう」で、2回目は「清掃活動を見直そう」であった。

1回目は係活動の計画1の過程で、係ごとに「話し合いシート」を使った話し合いをする予定であった。しかし、「話し合いシート」の使い方について説明を簡単にしたため、児童には分かりづらく、一部の係しか「話し合いシート」を使わなかった。その係では、活動計画について自分の考えが書かれた付箋紙を「話し合いシート」に貼り出した。その後、係で話し合い、係としての考えとその理由をまとめた。宿題点検係では、宿題の提出数を増やそうと自分たちなりにアイデアを出していた(図7)。「話し合いシート」の使い方についての丁寧な説明や、学級活動ノートによる「話し合いの進め方」の提示などが必要であった。

また、特に司会など役割を決めずに話し合い活動を進めた結果、係によって活動に差が出た。全員がそれぞれの意見を出し合う係もあれば、一部のメンバーで話し合いを進めたため、話し合いから取り残されてしまった児童がいる係も見られた。

2回目は清掃活動の計画2の過程で、清掃班ごとに「話し合いシート」を使った話し合い活動を行った。司会、記録、付箋紙(の整理)、発表の役割を決め、学級活動ノートの「話し合いの進め方」を参考に話し合いを進めた。

清掃活動で目指す姿について全員が自分の考えを発表しながら、それが書かれた付箋紙を「話し合いシート」に貼り出すことで、全員の考えを確かめることができた。考えの書かれた付箋紙を操作しながら、類似の考えをまとめて線で囲み、見出しを考えて「話し合いシート」に書き込んでいた。

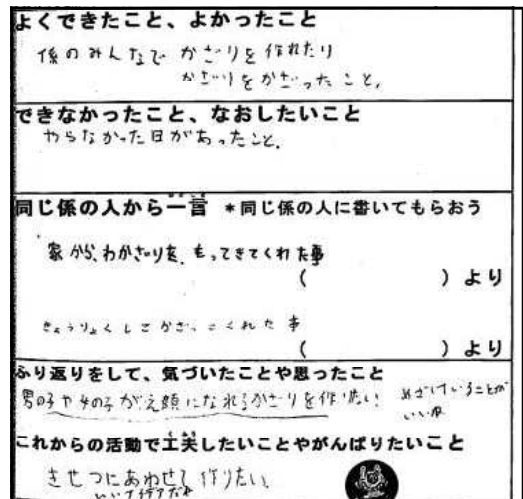


図5 学級活動ノートの一部



図6 係活動での振り返り活動の様子

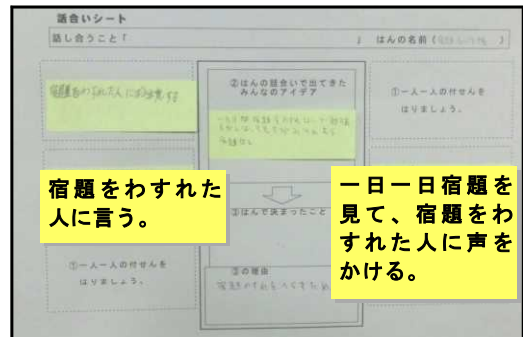


図7 係活動の話し合いで使った話し合いシート

ある班では、集中して清掃ができるように「5～10分しゃべらないでやる」と私語を我慢する時間を具体的に決めていた（図8）。反面、各班の班員が10人ほどであり、意見を比べ合う段階では、限られた時間内で全員で賛成、反対の意見を出し合うことは難しい状況であった。

「いつも自分たちで何となく決めて係活動をしていました。でも、係活動をちゃんとした、内容もちゃんと決めてやってみたら、前より楽しく取り組めたので、よかったです」「係活動で、一学期のときは、話し合いをしたり、振り返りをしていなかったけど、話し合ったり、振り返ったりしてみたら、係のやることがまとまりました」という児童の感想の記述から、小集団で時間をかけて丁寧に話し合ったことで、決まったことに納得して取り組んでいたことが分かる。

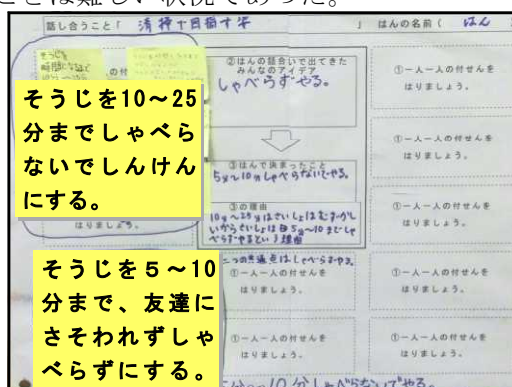


図8 清掃班の話し合いで使った話し合いシート

(5) 「振り返りシート」による振り返り活動

学級活動の時間に2回、「振り返りシート」を使った振り返り活動を行った。1回目は「係活動を振り返ろう」で、2回目は「清掃活動を振り返ろう」であった。

1回目は、係活動の評価の過程で、係ごとに2週間の実践活動を振り返り、よかった点や直したい点について出し合った。係ごとに司会、付箋紙（の整理）、記録、発表の役割を決めて、振り返り活動に取り組んだ。その際に、学級活動ノートに書いた自分の考えや気づきを付箋紙に書き写し、それを見て発表しながら、「振り返りシート」に貼り出した。その後、軸の上下を意識して付箋紙を貼り直したり、類似の意見を近くに集めて見出しを付けたりした。

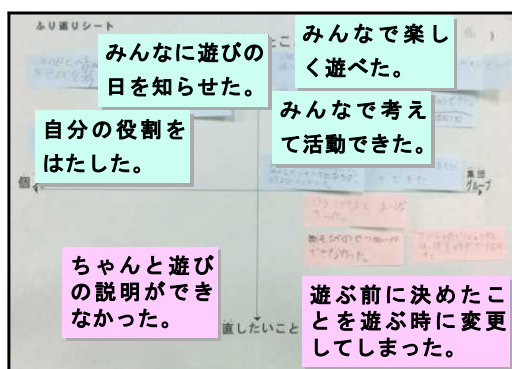


図9 係活動で使った振り返りシート

「振り返りシート」では、付箋紙を貼る位置について、横軸に対して上に行くほどよく、下に行くほど悪いことを事前に児童に伝えておいた。直したい点から係の課題の一つを選び、その改善策について話し合い、付箋紙に書いて「振り返りシート」に貼り出すことができた。レク係では、休み時間に中心になって学級の遊びを進めた様子を振り返り、「最初に決めた遊ぶ場所を変更しない」と改善策を挙げていた（図9）。

2回目は、清掃活動の評価の過程で、清掃班ごとに1週間の実践を振り返り、成果と課題を出し合った。清掃活動の計画2での指導の反省から、10人程度の清掃班を半分に分けて、振り返り活動を行った。1グループ4、5人で、司会、付箋紙、記録、発表の役割を決めて活動に取り組んだ。

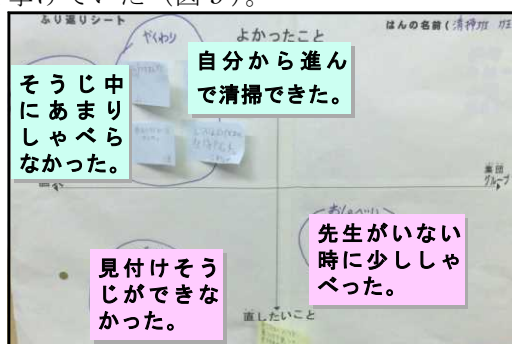


図10 清掃班で使った振り返りシート

振り返り活動の進め方については、「係活動を振り返ろう」の評価の過程で同様な活動を経験していたので、児童は活動の流れをつかんでいたようである。司会の児童は学級活動ノートの「振り返り活動の進め方」を参考にしていた。各グループによって活動に時間差が多少出たが、成果と課題を出し合い、課題に対する改善策を具体的に考えられた。あるグループでは、見付け掃除が不十分であることから、「やっていない所を見付けて見付け掃除をする」と改善策を挙げていた（図10・11）。清掃班の計画2



図11 清掃班での振り返り活動の様子

での話し合い活動に比べ、自分の意見を発表するとともに、決められた自分の役割を果たし、より協力し合って振り返り活動に取り組む姿が見られた。

「付箋などを使ってよいところと悪いところを見つけて、書くのは楽しかったです」「清掃活動のみんなの悪いところを出して、その悪いところをみんなで協力して直すというやり方がすごくいいと思いました。また、そのやり方をまねしてやりたいです」という児童の感想の記述から、付箋紙を使った作業を楽しみながら活動を振り返り、今後も行いたいと意欲をもったことが分かる。

(6) 学級活動等のアンケートとその結果の提示

事前と事後に学級活動に関するアンケート調査を行い、学級のよさと課題の二つにまとめ、グラフで示しながら、児童に知らせた。アンケート結果と教師の補足説明から、児童は学級の特徴を大体つかめたようであった。また、係活動や清掃活動についても現時点までの活動を振り返り、アンケート調査を行った。よい点や問題点をまとめ、グラフで示した(図12)。その結果、児童は清掃活動などの問題をつかみ、その原因を考えようとしていた。

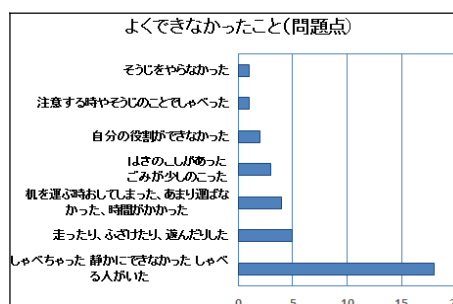


図12 清掃活動に関するアンケート結果

VIII 実践の結果と考察

授業実践の事前・事後に行った学級活動アンケートや「学級の雰囲気と自己肯定感を把握する質問紙(C&S)」(以下質問紙)による調査、「学級活動サポートファイル」への記述から本実践の結果と考察を以下のとおりまとめた。

1 集団への所属感の高まり

(1) 結果

図13で示した学級活動アンケート結果から、「自分の考えや意見を言う」という回答は、「あてはまる」が11%から50%と4.5倍に増加した。

「友達の意見を最後まで聞く」と回答した児童は、事前と事後ともに「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせると、86%であった。しかし、「あてはまる」の割合を見ると、事後では、事前に比べ15%増え、1.5倍になった。

「自分の考えを分かってくれる人がいる」という回答は、事前と事後ともに「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせると、82%であり、あまり変化はなかったが、高い数値であった。

(2) 考察

係活動や清掃活動の小集団で、「学級活動サポートファイル」を活用した話し合い活動を取り入れたことで、自分で考える場が設定され、自分の考えを「学級活動ノート」に書いてから、話し合いに臨もうという意欲をもてたと考える。さらに、「話し合いシート」を用いることで、全員に発表する場が設けられ、付箋紙に書かれた自分の考えを確かめながら安心して発表するとともに、一人一人の思いが交流できた。また、付箋紙の自分の考えが話し合いでやり取りされる中で、友達に受け入れられたと感じることができ、集団への所属感の高まりにつながったと考える。

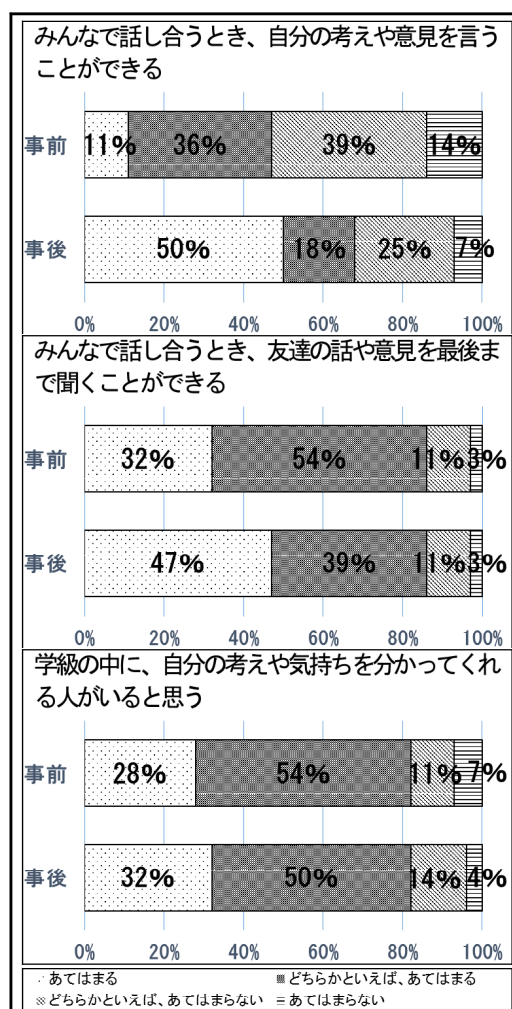


図13 所属感に関する事前と事後のアンケート結果

児童の感想から、学級生活を充実、向上させるための係活動や清掃活動の役割をある程度理解し、小集団で時間をかけた話し合いの必要性を感じていることが分かる（図14）。自分の考えを「学級活動ノート」に書き、話し合いでほかの児童と意見を交流させたことで、係活動や清掃活動に対してより具体的に活動内容や行動目標を考えることができたと考える。

以上のことから、「学級活動サポートファイル」を活用した話し合い活動を取り入れたことで、一人一人が意見を持ち、友達の意見をよく聞きながら折り合いを付けて集団決定をし、集団への所属感が高まる上で有効であったと考える。

2 個人の役割や責任を果たす意欲の高まり

(1) 結果

図15で示した学級活動アンケート結果から「学級生活をよりよくするために、どうしたらいいか考えている」という回答は、「あてはまる」が事前では11%であったが、事後では39%で、3.5倍になった。

「みんなや学級のためになることを、自分で見つけている」という項目では、「あてはまる」が事前では7%、事後では21%になり、3倍になった。「あてはまる」と「どちらかをとれば、あてはまる」の合計は事前よりも17%増加した。

「学級が楽しくなるように活動する」という項目では、事前では「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した児童が43%に止まっていた。しかし、事後では、「あてはまる」だけで43%に上がった。「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」の合計が79%になり、大きく増加した。

係活動の実践過程で、「学級活動ノート」の児童の自己評価の欄を見ると、「自分から進んでできたか」と「友達と協力して活動できたか」の項目では、4段階の評価でそれぞれ平均で3.2、3.5であった。

また、活動後の児童の感想では、係活動で何のためにどんな活動を頑張りたいのかを具体的に書いていた（図16）。このことから、児童が係活動で学級や友達のためになることを意識して、自分の役割や責任を果たそうとしていることが分かる。

(2) 考察

「学級活動ノート」を用いて、児童の考えや活動のよさについてコメントを書くことで、「学級活動ノート」が返却されると、児童はすぐに開き、教師からのコメントを読もうとしていた。また、朝の会等で係活動や清掃活動の活動目標に沿って努力した事実を具体的に挙げて紹介したことで、児童は自分のよさや努力する様子が認められ、評価され、集団活動で個人の役割や責任を果たそうとする意欲が高

- 学活で係活動や掃除について話し合った時、係や掃除はとっても大事ななと思いました。
- 係活動は、一学期と違ってゆっくり決めたことで、よい係になりました。
- 清掃のことは、班でまとまってみんなで話し合うことができました。

図14 活動後の児童の感想

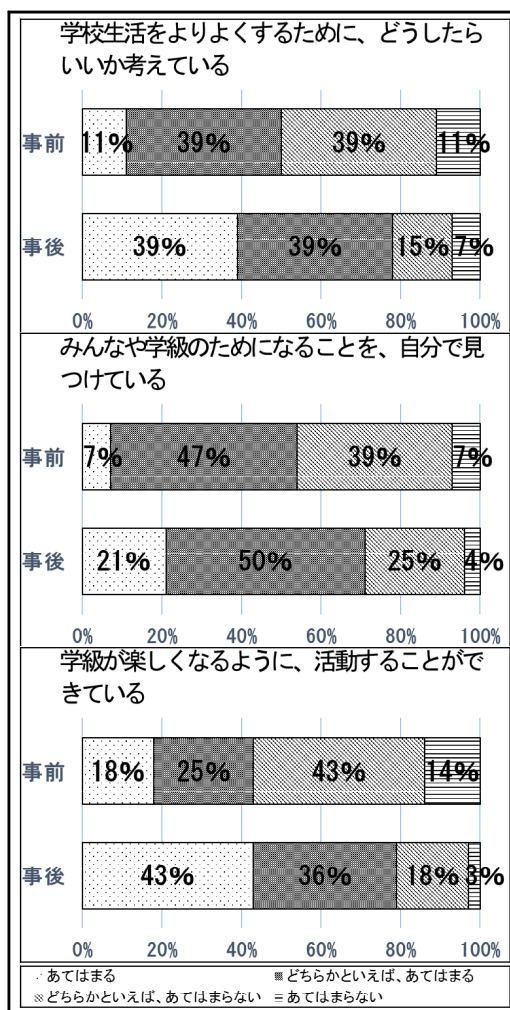


図15 個人の役割や責任への意欲に関する事前と事後のアンケート結果

- 係活動でもっと楽しめるようにおもしろく飾る。
- もっとイベント係で楽しいイベントを計画したい。
- 係活動では、いつも宿題のチェックの時に友達に声を掛けられているので、自分からやりたい。
- 楽しい新聞を書くと、みんなが笑顔になってくれる。
- デコレーション係だから、もっと飾りを付けてクラスを明るくしたい。

図16 活動後の児童の感想

まったと考える。

学級生活をよりよくしようと児童は係活動ごとに活動内容の工夫について話し合い、その活動計画を立てた。学級生活の問題を解決しようと清掃に関する問題について話し合い、清掃班ごとに目指す具体的な姿を決めた。このように話し合いを重ね、自分の役割を果たそうと活動したり、友達と集団活動の楽しさを共有したりする中で、学級生活を楽しくしたり、役立ったりしたいという意識が高まったと考える。係や清掃班での話し合いの様子を見て、「話し合いがよくなった」などと活動過程をとらえて言葉掛けをすることも、活動への意欲の高まりにつながったのではないと思われる。

以上のことから、「学級活動サポートファイル」を活用し、活動目標に沿った具体的な価値ある言動を認め、紹介することで、集団活動で個人の役割や責任を果たそうとする意欲が高まる上で有効であったと考える。

3 自己有用感や自分への自信の高まり

(1) 結果

図20で示した学級活動アンケート結果から「友達のよいところを見つけている」という回答は、「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」の合計が事前よりも18%増加した。

「自分には、よいところがある」という項目では、事前と事後で「あてはまる」の値があまり変わらなかった。「どちらかといえば、あてはまる」の値が事前で21%、事後で46%となり、約2倍に増加した。

「自分の役割を果たし、友達や学級のために役に立っている」という項目では、「あてはまる」が事前で11%、事後で25%になり、約2倍に増加した。

「自分の行動や発言に自信をもっている」という質問に「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と答えた児童が61%となり、事前よりも11%増加した。

「友達と協力しながら、係活動や当番活動を行う」という項目では、事前と事後ともに「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせて、93%という高い数値であった。「あてはまる」だけを見ると、事前32%、事後68%であり、約2倍に増加した。

次項図21の質問紙の事前と事後を比較すると、学級の雰囲気（横軸）の点が全体的に右に移動した。学級の雰囲気（横軸）の50より上の人数が5人増えた。学級の雰囲気について全体の平均を取ると、数値が4.07上昇した。また、自己肯定感（縦軸）については、点が全体的に下がった。自己肯定感について全体の平均を取ると、数値が1.57下降した。ただし、自己肯定感（縦軸）の40より上の人数は10人と事前と事後で変わらなかった。

係活動と清掃活動で評価の過程で、「学級活動ノート」で「自分の役割を果たして目指す姿に近づけたか」と「クラスのために役立つように活動できたか」について児童は自己評価を行った。4段階の評価で係活動ではそれぞれ平均で3.1、3.2であり、清掃活動ではそれぞれ平均で2.8、2.6であった。清掃活動での評価の数値が低かった。

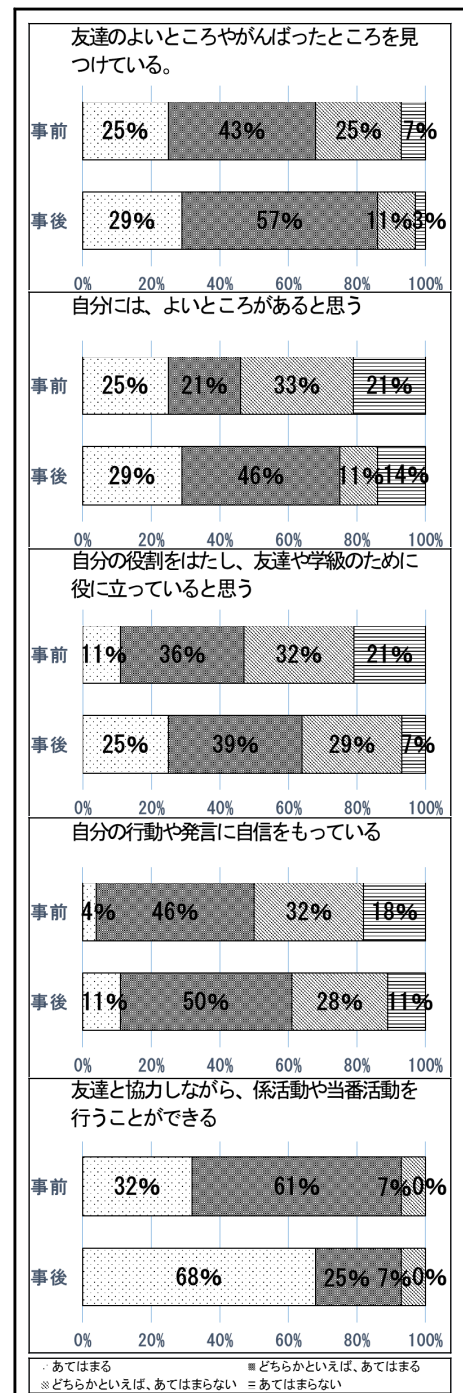


図20 自己有用感や自分への自信に関する事前と事後のアンケート結果

(2) 考察

係活動や清掃活動の評価の過程で、「学級活動サポートファイル」を活用した振り返り活動を取り入れたことで、児童一人一人が、実践活動を通してよかった点や直したい点を「学級活動ノート」に書き、それを基に係活動や清掃班の集団で「振り返りシート」を使って意見を分類、整理した。さらに、その「振り返りシート」を基に直したい点について具体的な改善策を話し合い「振り返りシート」に記入した。その後、

各班から改善策を学級全体に発表したり、使用した「振り返りシート」を教室に掲示したりしたことで、改善しよう意識しながら、日常活動を継続して行うことにつながったと考えられる。

学級活動の時間に「係活動を振り返ろう」では、学級全体で各係の活動内容のよさや頑張りについて互いに発表し合った。同様に「清掃活動を振り返ろう」では、個々に一生懸命に清掃に取り組む様子や協力し合って取り組む様子を確認し合った。「学級活動ノート」の「同じ係（班）の人から一言」の欄で、実践活動での個人のよさや努力を互いに書いて伝え合った。このように児童同士で互いによさを認め合い交流する場が設定され、評価されたことから、多くの児童は、友達のよさや頑張りを見付けようと少しずつ意識して日常の学級生活を送るようになってきたと考えられる。

学級活動アンケートについて、事前では、2割の児童が頑張りたい活動として係活動を挙げた。そのほかに、無回答の児童が多かったり、クラブなど学級活動に該当しない活動を挙げた児童が少数いたりした。事後では、ほぼ全員が係活動や学級会など具体的にどんな活動を頑張るのかを挙げた。係活動を頑張る理由に、「クラスを明るくしたい」「みんなを楽しくさせたい」「クラスをよくしたい」などを挙げた。また、清掃活動など当番活動を頑張る理由に、「みんなの役に立ちたい」「自分の役割を果たしたい」「クラスがよくなる」を挙げた。いずれからも学級生活を充実、向上させたり、学級や友達のために自分の役割を果たしたりしたいなど目的意識をもって学級活動に取り組もうとしていることが分かる。授業実践を行った2週間後と1ヵ月後に児童を観察する機会を得た。活動計画に基づいて係活動を協力して行ったり、静かに時間内に清掃活動を行おうとしたりする児童が見られた。係活動については、「学級活動ノート」を使って、実践活動を継続して行い、その振り返りを行おうとしていた。これらのことから、児童は自分の役割を果たしながら、友達と協力して活動に取り組む中で、「自分はクラスのために役立っている」という自己有用感を高め、より自信をもって学級生活を送るようになってきたと考えられる。

活動目標について全員が共通の理解をもち、その目標達成のための活動内容や役割分担などを考え、話し合い、それを協力して実践してきた。自分の役割や責任を果たすとともに、実践活動を振り返り、今後の活動に生かすなど児童自らがよりよい学級生活を築こうと言葉で表現したり、態度や行動に表したりするようになった。そのような自主的、実践的な態度を自らが表したり、自分の周りで見たりするようになり、学級の雰囲気はよくなったと感じ、自他のよさを互いに認め合い、協力し合ってよりよい生活を目指す学級になりつつあると考える。また、質問紙の自己肯定感（縦軸）については、点が全体的に下がったのは、学級や学校の日常生活を振り返りながら、個々の児童がよく考えて、自分の考えや行動をより客観的に見るようになったからではないかと考える。

以上のことから、「学級活動サポートファイル」を活用した振り返り活動を取り入れたことで、自他のよさに気付き、互いに認め合い、自己有用感や自分への自信を高め、協力し合ってよりよい生活を築こうとする学級づくりに有効であったと考える。

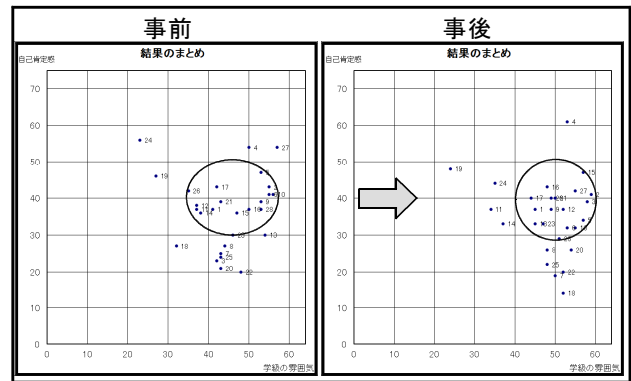


図21 質問紙による分布図の比較

IX 研究の成果と課題

1 成果

- 「計画」「実践」「評価」の活動過程で、「学級活動サポートファイル」を活用した話し合い活動や振り返り活動を取り入れたことで、児童自らが学級生活を充実、向上させようと目的意識をもって友達と協力して活動できるようになった。こうした自主的、実践的な姿勢は、互いによさを認め合い、協力し合ってよりよい生活を築こうとする学級づくりにつながった。
- 学級活動の実態や係活動、清掃活動に関するアンケート調査をし、その結果をグラフで表示提示したことで、児童に学級活動でのよさや課題を可視化して知らせ、学級生活の問題に気付かせることができ、係活動や清掃活動を見直すきっかけになった。

2 課題

- 活動過程ごとに、児童は「仲間づくりカード」を使って集団で「活動の評価」を行い、活動づくりの状況を知った。また、教師による観察を中心にし、チェックシートを活用した「個人の評価」をするとともに、集団づくりの状況を見取るための視点を設け、教師が「集団の評価」を行った。今後は、低学年・中学年・高学年ごとに学級集団の発達を段階別に表し、各段階ごとに学級活動としてどのような活動を行えば次の段階に進めるかを実践を通して検討する必要がある。

X 自作教材の改善と効率的な活動の進め方に向けて

1 自作教材の改善について

「学級活動サポートファイル」は、児童に教材の役割や内容が分かるように、図を使いながら説明する文章を「学級活動ノート」に示す。次に、活動過程でポイントとなる話し合い活動と振り返り活動について、児童の手引きとなるように、それらの進め方を図を使いながら、活動を進める言葉を「学級活動ノート」に示す。

また、「教師用指導書」には、学級活動の集団活動において、計画1、計画2、実践、評価の活動過程ごとに展開例を示す。さらに、「学級活動ノート」を活用する上での留意点など「学級活動サポートファイル」を構成する個々の教材について、その活用の仕方や留意点を「教師用指導書」に示す。

2 効率的な活動の進め方について

学級活動の授業時数は、年間35単位時間（小学校第1学年は34単位時間）に決められている。そこで学級の実態や、学級や児童の抱える諸課題に対して様々な議題や題材を取り扱う必要がある。係活動や当番活動など集団活動に使用できる時間は限られている。朝の会などの時間を使って取り組む必要がある。短時間でも活動を進められるように、教材の活用法を考え、次のように提案する。

(1) 活動時間の確保

朝学習など帯の時間を使って、15分程度、活動時間を取る。全ての時間を使うことができないので、月に行う回数や曜日決めてを行う。どうしても時間を確保できない場合、児童の負担にならないように、休み時間に活動時間を設定する。事前に活動を行うことを説明しておく。また、活動時間に合わせて、「学級活動サポートファイル」を使い分けることを提案する（表3）。

表3 活動時間と使用教材の選定

活動時間	時間	活動過程	使用教材				
			①仲間づくりカード	②学級活動ノート	③活動ヒントカード	④話し合いシート	⑤振り返りシート
学級活動の時間	45分（1時間）	計画1・2	○	○	○	○	
		評価	○	○	○		○
学級活動の時間	30分（2/3時間）	計画1・2	○	○			
		評価	○	○			
業前の時間等	15分（1/3時間）	計画1・2		○			
		評価		○			

注：「実践」の過程での活動時間は、休み時間や当番活動の時間を基本とする。

(2) 評価の場の設定

活動後の振り返りがないと、児童の活動意欲は持続しない。朝や帰りの会の短時間に自己評価、児童同士の相互評価、教師による評価の時間を設ける。教師の評価は、結果よりも活動の過程を肯定的に評価するようにする。

<参考文献>

- ・杉田 洋 著 『自分を鍛え、集団を創る！特別活動の教育技術』 小学館(2013)
- ・杉田 洋 著 『よりよい人間関係を築く特別活動』 図書文化(2009)
- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 東洋館出版社(2008)

<研究協力校>

富岡市立一ノ宮小学校

<研究協力者>

新井 健司 須藤 千賀子

<担当指導主事>

小熊 良一 荻原 博樹

学級活動ノート

(3、4年生用)



この「がっ きゅう かつ どう学級活動ノート」は、先生の力を借りず、自分たちで学級活動を進めるために使うワークシートなどをまとめたものです。か かり かつ どう係活動やせい そう かつ どう清掃活動の進め方、グループでの話合いやふり返りのやり方がわからないときのための活動のヒントなどがのっています。

このノートにある学級活動の進め方を参考にしながさん こうら活動に取り組むことで、「学級活動の時間にどんなことをするのか」「どうやって活動を進めればよいか」がわかるようになります。

〇〇小学校で学ま なぶみなさんが、「自分たちできょうりよく協力し合って楽しい学級生活をつくる力」や「ふだんの生活や学習に進んで取り組もうとする力」を身に付けることができるように、このノートを作りました。

どんどん使みづかって、自ら活動に取り組んでください。

年 組 名前

が つ き ゆ う か つ ど う 学級活動ノート

もくじ

自分たちで活動を進める方法	1
きょうざい しようかい 教材の紹介と使い方	2
・学級活動ノート ・仲間づくりカード ・活動ヒントカード		
けいかく じつこう かえ がくしゅう 「計画」「実行」「ふり返り」学習の進め方	3
グループの話合いの進め方 1	4
グループの話合いの進め方 2	5
グループのふり返りの進め方 1	6
グループのふり返りの進め方 2	7
学習シート <small>かがりかつどうよう</small> 係活動用		
・計画 1	8
・計画 2	9
・実行	10
・ふり返り	11
学習シート <small>せいそうかつどうよう</small> 清掃活動用		
・計画 1	12
・計画 2	13
・実行	14
・ふり返り	15



自分たちで学級活動を進める方法

～「計画」「実行」「ふり返り」学習～

活動開始



何ができるかな？

「クラスみんなを楽しくしたり、役に立ったりするために、どんな活動ができるかな？」

(問題の発見)

目標の話し合い

みんなで目標を決めよう

「〇〇の活動で、どんなことを目指すのかを決めよう！」

(目標の設定)

計画1の話し合い



みんなで計画を話し合おう！

「〇〇の活動で、だれが、いつ、何をするのか活動計画を立てよう！」

(計画1)

計画2の話し合い

みんなで目指す姿を話し合おう！

「〇〇の活動をして、どのようなすがたになりたいか決めよう！」

(計画2)

実行



自分の役割を果たそう！

「〇〇の活動を続けてやっていこう！」

(実践)

ふり返り



みんなで活動をふり返ろう！

「〇〇の活動をふり返り、よくできたことやできなかったことを出し合おう！」

(評価)

再実行



よりよい活動をしていこう！

「ふり返ったことを次の活動に生かそう！」

(改善)

「〇〇の活動をして、どんな力がついたかな？」

「自分たちで協力し合って楽しい学級生活をつくる力」



「ふだんの生活や学習に進んで取り組もうとする力」

「学級活動ノート」は

学級活動で、いろいろな活動の記録をのこすものです。

このノートの役目は、次のとおりです。

- 自分の考えや話合いで決まったことを書き込むことができます。
- 活動をふり返り、どんな力がついたのか自分で考え決められ、次の活動に役立てます。

学習シート No.1 係活動 計画 1		
名前 ()		
係名		
目標 (〇〇をしてクラスを楽しくする、クラスの役に立つ)		
活動計画 (活動内容と役割分担)		
すること	いつ	する人
用意するもの		
ふり返り よくできた できた〇、もう少し△、できなかった×		
①自分の意見を言うことができたか。		
②友達の見解を聞くことができたか。		
③自分もよく、みんなもよいことを決める役割ができたか。		

学級活動ノートのほかに、カードやワークシートが用意されています。

「仲間づくりカード」は

「計画1」「計画2」「実行」「ふり返り」の四つの活動に合わせて、活動のねらいが示されています。

このカードの役目は、次のとおりです。

- 活動のねらいに向けて、グループ（班）ごとにはげまし合いながら話し合ったり実行したりします。
- 活動をふり返り「ポイント」をつけることで、グループ（班）のまとまりの様子がわかります。

仲間づくりカード 計画 1 レベル 1
係活動を パワーアップしよう！

目標に向けての活動計画をみんな で話し合うことができる。
ポイント ○ ○

「活動ヒントカード」は

「仲間づくりカード」に合わせて作られていて、活動の流れがわかります。

このカードの役目は、次のとおりです。

- 話合いやふり返りで、何をしたいかわからないときに活動の手がかりになります。

係活動「ヒントカード」 計画 1 レベル 1
1 活動のねらい 目標に向けての活動内容や方法など計画をみんなで話し合うことができる。
2 活動の流れ
① 係の目標を決めよう。 ◎「〇〇（係ですること）をして、クラスを楽しくする」 「〇〇（係ですること）をして、クラスの役に立つ」
② 活動計画を立てよう。 ◎「いつ」「だれが」「何を」するか活動内容や役割を決める。
③ 決まったことを記録しよう。 ◎自分の仕事を忘れずにするために、決まったことを学級活動ノート(活動ノート)に記録する。

「計画」「実行」「ふり返り」学習の進め方

1 仲間づくりカードで、「活動のねらい」をグループでたしかめます。

例えば、計画1では、活動のめあては、「目標に向けての活動計画をみんなで話し合うことができる。」となっています。

グループの全員で、「活動のねらい」を声に出して読んで、たしかめるのもいいです。



2 学級活動ノートを使って、話合いやふり返りの活動を行います。

「計画1」「計画2」「実行」「ふり返り」の四つの活動に合わせて、「学習シート」が作られています。

そのときの活動用の「学習シート」をえらんで使います。

話合いで自分の考えやアイデア、話合いで決まったことを学習シートに書きます。

また、活動が終わったら、学習シートで、そのときの活動をふり返ります。

学習シート No.1 係活動 計画1

係名 ()

目標 先生と一緒にクラスを楽しめる、クラスの役に立つ

活動計画(活動内容と役割分担)	すること	いつ	する人

用意するもの

ふり返り

よくできた	できた	もう少し	できなかった
①自分の意見を言うことができたか。			
②友達の見解を聞くことができたか。			
③自分もよく、みんなもよいことを決められたか。			

3 仲間づくりカードで、「活動のねらい」が、どうであったかをふり返ります。

グループの全員で活動をふり返って、「ポイント」をつけることで、グループのまとまりの様子がわかります。

活動のめあてどおりに、グループの全員が、思うように活動できた場合は、「ポイント」が全部つけられます。



グループの話合いの進め方 1

* 学級活動ノートを使いながら、一人一人が考える時間をつくる話合いの進め方

①はじめの言葉

・司会 「これから、グループでの話合いを始めます。
では、() について話し合います。」

・全員 「お願いします。」

・司会 「時間は()分です。
はじめに、自分の考えを学級活動ノートに書いて
ください。」

- 学級活動ノートの学習シートNo. 1、2を使う。
- 内容に合わせて、考える時間を取る。
- 考えが思いつかない場合、近くの人と相談する。

②意見の発表

・司会 「では、意見をお願いします。続けて、理由も発表してください。」

- 全員が意見を言うようにする。
- 意見を言えない人は「少し考えさせてください」と言う。
- 短く、「です」「ます」を使って話す。
- 大切なことを学級活動ノートにメモする。

③考えをまとめる

・司会 「話し合いをまとめると、()です。
みなさん、よろしいでしょうか。」

・全員 「いいです。」
○決まったことを学級活動ノートに書く。

④ふり返り

・司会 「話し合いをふり返ります。学級活動ノートでふり返り
しましょう。」

- 学級活動ノートの学習シートNo. 1、2を使う。

⑤おわりの言葉

・司会 「これでグループでの話し合いを終わりにします。」

グループの話し合いの進め方 2

- * 学級活動ノートと話し合いシートを使いながら、一人一人の考えや話し合いの流れが「見える化」した話し合いの進め方

①はじめの言葉

- 司会 「これから、() について話し合います。」
- 司会 「はじめに、自分の考えを学級活動ノートに書いてください。」
「次に、自分の考えを付せんに書いてください。一枚の付せんに一つの考えを書いてください。」

②意見の発表

- 司会 「付せんにふり返りシートに貼りながら、まず意見を発表してください。次に理由も言ってください。」
「付せんが二枚以上ある人は、はなして貼ってください。似ている意見の付せんは、近くに貼ってください。」
- 司会 「聞く人は、よい考えだと思う時は、うなずいたり、『いいね』『そっか』などの声をかけてください。」
- 司会 「まず〇〇君(さん) お願いします。」(順番に)

③仲間分け

- 司会 「まとめられると思う意見はありますか。」
「意見ごとに見出しをつけてください。」
○似た意見を集める。付せんに動かす。
○まとめた意見を線でかこみ、見出しをつける。

The diagram shows a '話し合いシート' (Discussion Sheet) with a header for the topic and a list of names. The main area is divided into three columns. The first column has three boxes for notes. The second column has a box for 'みんなの話し合いで出てきたみんなのアイデア' (Ideas from everyone's discussion) with a downward arrow pointing to a box for 'みんなで決まったこと' (What we decided together). Below that is a box for '理由' (Reasons). The third column has two boxes for '一人一人の付せんを貼りましょう。' (Let's stick our own sticky notes). A red arrow points from the text '付せんが二枚以上ある人は、はなして貼ってください。' to the first column boxes.

④考えをふかめる

- 司会 「出された意見を見て、考えを付け足したり、何か意見を出してください。」
○出された意見に質問をしたり、説明を求めたりする。
○班で出された意見を、話し合いシートに直接書く。

⑤考えをまとめる

- 司会 「出された意見からグループの考えを決めたいと思います。グループの考えをまとめると、() ですか。」
「みなさん、よろしいでしょうか。」
○出された考えをまとめる。
○決まったことと、その理由を話し合いシートに書く。

This diagram is identical to the one above, showing the '話し合いシート' with the same layout of boxes for notes, ideas, decisions, reasons, and sticky notes. A red arrow points from the text '決まったことと、その理由を話し合いシートに書く。' to the '理由' box.

⑥おわりの言葉

- 司会 「これでグループでの話し合いを終わりにします。」
○決まったことを学級活動ノートに書く。

グループのふり返りの進め方 1

* 学級活動ノートを使いながら、一人一人がふり返る時間をつくる進め方

①はじめの言葉

- 司会 「では、() についてふり返ります。」
- 全員 「お願いします。」
- 司会 「時間は () 分です。」

はじめに、よかったことと、なおしたいことを学級活動ノートに書いてください。」

- 学級活動ノートの学習シートNo.4を使う。
- 内容に合わせて、考える時間を取る。
- 考えが思いつかない場合、近くの人と相談する。

学習シート No.4 係活動 ふり返り	
名前 ()	
係名	
ふり返り	よくできたこと、できたこと、もう少し、できなかったこと *活動をよくふり返り、次に生かそう。
①	自分から誘って活動できたか。
②	友達と協力して活動できたか。
③	自分の役割をばたいて最後まで頑張ったか。
④	自分から誘って活動できなかった理由を、誰かに相談してよくできたこと、よかったこと
できなかったこと、なおしたいこと	
同じ係の人から一言 *同じ係の人に書いてもらう	
() より	
ふり返りをして、気づいたことや思ったこと	
() より	
これからの活動で王様したいことやがんばりたいこと	

②意見の発表

- 司会 「では、意見ををお願いします。よかったことと、なおしたいことを発表してください。」
- 全員が意見を言うようにする。
- 意見を言えない人は「少し考えさせてください」と言う。
- 短く、「です」「ます」を使って話す。
- 大切なことを学級活動ノートにメモする。

③課題をまとめ、改善策を考える

- 司会 「なおしたいことをまとめると、() です。みなさん、どのようにしたらよろしいでしょうか。」
- 班の課題を解決するアイデアを全員で考える。
- 考えついた解決のアイデアを学級活動ノートにメモする。

④友達のよさを見つける

- 司会 「お互いに活動でがんばったことやよかったことを伝え合いましょう。学級活動ノートを交換して書きましょう。」
- 学級活動ノートを互いに交換する。
- 友達のよいところを思い出して書く。

学習シート No.4 係活動 ふり返り	
名前 ()	
係名	
ふり返り	よくできたこと、できたこと、もう少し、できなかったこと *活動をよくふり返り、次に生かそう。
①	自分から誘って活動できたか。
②	友達と協力して活動できたか。
③	自分の役割をばたいて最後まで頑張ったか。
④	自分から誘って活動できなかった理由を、誰かに相談してよくできたこと、よかったこと
できなかったこと、なおしたいこと	
同じ係の人から一言 *同じ係の人に書いてもらう	
() より	
ふり返りをして、気づいたことや思ったこと	
() より	
これからの活動で王様したいことやがんばりたいこと	

⑤まとめ

- 司会 「活動をまとめます。ふり返りをして気づいたことや思ったことを学級活動ノートに書きましょう。」

⑥おわりの言葉

- 司会 「これでグループでの話し合いを終わりにします。」

グループのふり返りの進め方 2

* 学級活動ノートとふり返りシートを使いながら、一人一人の考えや話合いの流れ「見える化」した進め方

①はじめの言葉

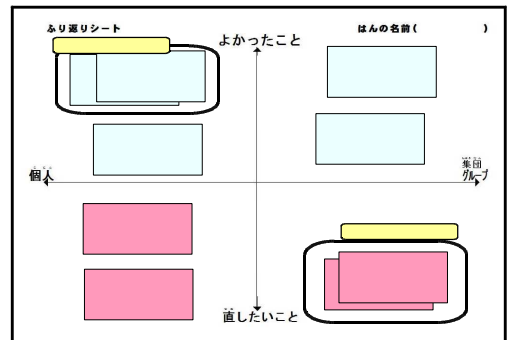
- 司会 「では、() についてふり返ります。」
- 全員 「お願いします。」
- 司会 「はじめに、よかったことと、直したいことを学級活動ノートに書いてください。○学級活動ノートの学習シートNo.4を使う。
「次に、同じことを付せんに書いてください。一枚の付せんに一つのことを書いてください。よかったことを青い付せんに、直したいことを赤い付せんに書いてください。」
○「よくできたことやよかったこと」は青い付箋に「できなかったことや直したいこと」は赤い付箋に書く。

②意見の発表

- 司会 「付せんにふり返りシートに貼りながら、まず意見を発表してください。次に理由も言ってください。
「付せんが二枚つ以上ある人は、はなして貼ってください。似ている意見の付せんは、近くに貼ってください。」
- 司会 「聞く人は、よい考えだと思う時は、うなずいたり、『いいね』『そっか』などの声をかけてください。」
- 司会 「まず○○君(さん)をお願いします。」(順番に)

③仲間分け

- 司会 「まとめられると思う意見はありますか。」
「意見ごとに見出しをつけてください。」
○似た意見を集める。付せんを動かす。
○まとめた意見を線でかこみ、見出しをつける。



④課題をまとめ、改善策を考える

- 司会 「なおしたいことをまとめると、() です。
みなさん、どのようにしたらよろしいでしょうか。」
○班の課題を解決するアイデアを全員で考える。
○考えついた解決のアイデアをふり返りシートに書き込む。

⑤友達のよさを見つける

- 司会 「お互いに活動でがんばったことやよかったことを伝え合いましょう。学級活動ノートを交換して書きましょう。」

⑥まとめ

- 司会 「活動をまとめます。ふり返りをして気づいたことや思ったことを学級活動ノートに書きましょう。」

⑦おわりの言葉

- 司会 「これでグループでの話合いを終わりにします。」

学習シート No.4 (係活動用)	
係名	名前()
ふり返り	よくできたこと、やらせし、できなかったこと *活動をよくふり返り、次につなげよう。
①みんな楽しく活動できたか。	
②友達と協力して活動できたか。	
③自分の役割をはたして自分も喜ぶことができたか。	
④みんなの活動が、自分やクラスの活動にいい影響を与えたか。	
よくできたこと、よかったこと	
できなかったこと、なおしたいこと	
同じ係の人から一言 *同じ係の人に書いてもらおう	()より
ふり返りをして、気づいたことや思ったこと	()より
これからの活動で主観したいことやがんばりたいこと	



係名

もくひょう
目標 (〇〇をしてクラスを楽しくする、クラスの役に立つ)

かつどうけいかく かつどうないよう やくわりぶんたん
活動計画 (活動内容と役割分担)

すること	いつ	する人

用意するもの

ふり返り よくできた◎ できた○ もう少し△ できなかった×

- | | |
|------------------------------|--|
| ①自分の意見を言うことができたか。 | |
| ②友達の見解を聞くことができたか。 | |
| ③自分もよく、みんなもよいことを決める話合いができたか。 | |



係名

目標 (〇〇をしてクラスを楽しくする、クラスの役に立つ)

係活動で目指す姿
 どんなすがたになりたいか (態度)、どのようにしたいか (行動)。(数字などを入れるとよい。)

何を	
いつまで	
どれくらい	
どのように	

することを目指す。

ふり返り よくできた◎ できた○ もう少し△ できなかった×

- | | |
|-------------------------------|--|
| ①自分の意見を言うことができたか。 | |
| ②友達のことを聞くことができたか。 | |
| ③自分もよく、みんなもよいことを決める話し合いができたか。 | |

学習シート No. 3

係活動 実行



係名					
月 日 ~ 月 日		日の活動計画		ふり返り	
曜	すること	いつ	する人	①	②
月					
火					
水					
木					
金					

1週間のふり返り よくできた◎ できた○ もう少し△ できなかった×

①自分から進んで活動できたか。

②友達と協力して活動できたか。

気づいたことや思ったこと



係名	
ふり返り よくできた◎ できた○ もう少し△ できなかった× * 活動をよくふり返り、次に生かそう。	
①自分から進んで活動できたか。	
②友達と協力して活動できたか。	
③自分の役割をはたして目指す姿に近づけたか。	
④クラスのために役立つように活動できたか。	
よくできたこと、よかったこと	

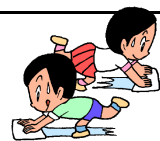
できなかったこと、なおしたいこと	

同じ係の人から一言 * 同じ係の人に書いてもらおう	
() より	

() より	

ふり返りをして、気づいたことや思ったこと	

これからの活動でがんばりたいこと	



はん名 () はん

もくひょう 目標 (○○をしてクラスのためにやくだ 役立つ)

かつどうけいかく かつどうないよう やくわりぶんたん 活動計画 (活動内容と役割分担)

すること	いつ	する人

ふり返し よくできた◎ できた○ もう少し△ できなかった×

- | | |
|------------------------------|--|
| ①自分の意見を言うことができたか。 | |
| ②友達の意見を聞くことができたか。 | |
| ③自分もよく、みんなのよいことを決める話合いができたか。 | |



はん名 () はん

目標 (〇〇をしてクラスのために役立つ)

清掃活動で目指す姿

どんなすがたになりたいか (態度)、どのようにしたいか (行動)。(数字などを入れるとよい。)

大切な点	自分の考え	はんで出た考え
何を		
いつまで		
どれくらい		
どのように		

することをめざす。

ふり返り よくできた◎ できた○ もう少し△ できなかった×

①自分の意見を言うことができたか。	
②友達のことを聞くことができたか。	
③自分もよく、みんなのよいことを決める話合いができたか。	

学習シート No. 3

清掃当番 実行



はん名 () はん					
月 日 ~ 月 日の活動計画				ふり返り	
曜	すること	いつ	する人	①	②
月					
火					
水					
木					
金					
1週間のふり返り よくできた◎ できた○ もう少し△ できなかった×					
①自分から進んで活動できたか。					
②友達と協力して活動できたか。					
気づいたことや思ったこと					



はん名 () はん

ふり返り よくできた◎ できた○ もう少し△ できなかった×

* 活動をよくふり返り、次に生かそう。

① 自分から進んで活動できたか。

② 友達と協力して活動できたか。

③ 自分の役割をはたして目指す姿に近づけたか。

④ クラスのために役立つように活動できたか。

よくできたこと、よかったこと

できなかったこと、なおしたいこと

同じ班の人から一言 * 同じ班の人に書いてもらおう

() より

() より

ふり返りをして、気づいたことや思ったこと

これからの活動でがんばりたいこと